

17. TPA kit の臨床的検討

中村 立子 中島 鉄夫 野口 正人
 松下 照雄 小島 輝男 (福井医大・放)
 紙谷 尚之 (同・産婦)
 石井 靖 (同・放)

近年, TPA kit が改良されたので, その臨床的応用について検討した. 健常人の血中 TPA 値は, 32.6 ± 20.3 U/l (mean \pm SD, n=105) で, 男性は女性に比し軽度高値であった. 90 U/l を正常上限とすると, 悪性疾患における陽性率(高値)は 52% であったが, 臓器特異性はなかった. 良性疾患では, 肝疾患, 腎不全において偽陽性率が高く, 血中 TPA 値の解釈には, これらの疾患の有無を考慮する必要がある. また, 血中 TPA 値は, 進行した悪性腫瘍患者で陽性率が高く病期をよく反映した. 手術および化学療法に伴う経過観察では, 血中 TPA 値は治療効果をよく反映した. さらに, TPA と CEA 値の間には相関がなく, 他の腫瘍マーカーと相補的に用いることが望ましいと思われ, 臨床的に有用であると考えられた.

18. ヨード標識ガストリンに対する自己抗体を持つ 4 症例とその臨床的意義

野口 正人 中島 鉄夫 (福井医大・放)
 青木 悦雄 飯田 泰啓 安達 秀樹
 (京都大・核)
 石井 靖 (福井医大・放)

血清 gastrin 値が二抗体法の RIA で異常高値を示し, charcoal-dextran を用いる一抗体法の RIA で低値を示す 4 例 (バセドウ病, 橋本病, 胃癌, 慢性胃炎各 1 例) を見いだした. ^{125}I 標識 gastrin には monoiodo-tyrosine-gastrin (MIT-Gas) と diiodo-tyrosine-gastrin (DIT-Gas) があるが, 全例に D^{125}I -Gas と結合する血清蛋白を認めた. この蛋白は protein A affinity column の IgG 分画に存在し, 抗体と考えられた. この抗体は Gas, MIT-Gas, MIT, DIT を認識せず, DIT-Gas を特異的に認識した. また, 症例の臨床検査成績の中で, 抗サイログロブリン抗体が全例に陽性であった. 血清 Gas 測定の RIA で (特に二抗体法の RIA), 高ガストリン血症の診断に, DIT-Gas に対する自己抗体の存在を考慮する必要がある.